

x の 4 次方程式

$$3x^4 - 10x^3 + ax^2 - 10x + 3 = 0 \quad \cdots (*)$$

を考える. ただし a は実数の定数である. $x = 0$ は方程式 (*) の解ではないので, 以下 $x \neq 0$ とする.

(1) $t = x + \frac{1}{x}$ とおく. x が 0 でない実数を動くとき, t のとり得る値の範囲は

$$t \leq \boxed{\quad\quad}, \quad \boxed{\quad} \leq t \text{ である. また, } x^2 + \frac{1}{x^2} = t^2 + b \text{ とおくと } b = \boxed{\quad\quad}$$

である.

(2) 方程式 (*) を $t = x + \frac{1}{x}$ の 2 次方程式として表せば $\boxed{\quad}t^2 - \boxed{\quad\quad}t + a - \boxed{\quad} = 0$

となる.

(3) x の方程式 (*) が実数解をもつとき, a のとり得る値の範囲は $a \leq \boxed{\quad\quad}$ である.

(4) x の方程式 (*) が相異なる 4 つの実数解をもつとき, a のとり得る値の範囲は

$$a < \boxed{\quad\quad\quad} \text{ である.}$$

(23 青山学院大 理工)

【答】

-2	2	-2	3	10	6	14	-26

【解答】

$$3x^4 - 10x^3 + ax^2 - 10x + 3 = 0 \quad \cdots (*)$$

(1) $x \neq 0$ より

$$t = x + \frac{1}{x} \iff x^2 - tx + 1 = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

である. x が 0 でない実数を動くときの $t = x + \frac{1}{x}$ を満たす t のとり得る値の範囲は, $\textcircled{1}$ を満たす実数 x が存在するような t の値の集合である.

$\textcircled{1}$ の判別式を D とおくと

$$D = t^2 - 4 = (t+2)(t-2)$$

であり, $\textcircled{1}$ が実数解をもつ条件は

$$D \geq 0 \quad \therefore t \leq -2, \quad 2 \leq t \quad \cdots (\text{答})$$

である. また, $x^2 + \frac{1}{x^2} = t^2 + b$ とおくと

$$b = x^2 + \frac{1}{x^2} - t^2 = x^2 + \frac{1}{x^2} - \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 = -2x \cdot \frac{1}{x} = -2 \quad \cdots (\text{答})$$

である.

(2) $x \neq 0$ であるから, (*) の両辺を x^2 で割って

$$3x^2 - 10x + a - \frac{10}{x} + \frac{3}{x^2} = 0$$

$$3\left(x^2 + \frac{1}{x^2}\right) - 10\left(x + \frac{1}{x}\right) + a = 0$$

$$3(t^2 - 2) - 10t + a = 0 \quad \left(\because t = x + \frac{1}{x} \text{ および (1) の後半}\right)$$

$$\therefore 3t^2 - 10t + a - 6 = 0 \quad \cdots (**)$$

となる.

(3) (**) を変形し

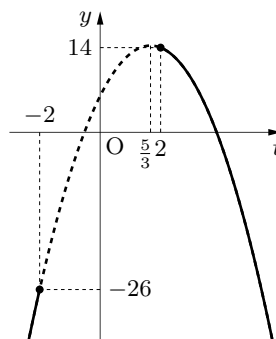
$$a = -3t^2 + 10t + 6$$

$f(t) = -3t^2 + 10t + 6$ とおくと, (*) が実数解をもつときの a のとり得る値の範囲は, (**) を満たす t が $t \leq -2, 2 \leq t$ の範囲に存在するような a の値の集合であり, それは曲線 $y = f(t)$ ($t \leq -2, 2 \leq t$) と直線 $y = a$ が共有点をもつような a の値の集合である.

$$f(t) = -3\left(t - \frac{5}{3}\right)^2 + \frac{43}{3}$$

曲線 $y = f(t)$ ($t \leq -2, 2 \leq t$) のグラフは右図となるから a のとり得る値の範囲は

$$a \leq 14 \quad \dots\dots(\text{答})$$



である.

(4) x の方程式 (*) が相異なる 4 つの実数解をもつためには, ① を満たす t が 2 つ必要であり, このとき $a \leq -26$ である. (1) より

$t = \pm 2$ のとき, $D = 0$ であり, x は 1 つ決まる.

$|t| > 2$ のとき, $D > 0$ であり, x は 2 つ決まる.

したがって, $a < -26$ が必要である.

$a < -26$ のときの (**) の異なる 2 実数解 t を t_1, t_2 とおき, $t = t_1$ のときの ① の解を α, α' , $t = t_2$ のときの ① の解を β, β' おく. $\alpha, \alpha', \beta, \beta'$ がすべて異なることを確認する. $\alpha \neq \alpha', \beta \neq \beta'$ であるから, $\alpha \neq \beta, \beta', \alpha' \neq \beta, \beta'$ であることを確認する.

$t = t_1$ のとき, 方程式 ① における解と係数の関係から

$$\begin{cases} \alpha + \alpha' = t_1 \\ \alpha\alpha' = 1 \end{cases} \quad \therefore \quad \begin{cases} t_1 = \alpha + \frac{1}{\alpha} \\ \alpha' = \frac{1}{\alpha} \end{cases}$$

であり, ① の解は $\alpha, \frac{1}{\alpha}$ である. 同じく, $t = t_2$ のとき, 方程式 ① の解は $\beta, \frac{1}{\beta}$ であり,

$t_2 = \beta + \frac{1}{\beta}$ である. ここで

$$\begin{aligned} t_1 - t_2 &= \left(\alpha + \frac{1}{\alpha}\right) - \left(\beta + \frac{1}{\beta}\right) \\ &= \frac{(\alpha^2 + 1)\beta - (\beta^2 + 1)\alpha}{\alpha\beta} \\ &= \frac{\alpha\beta(\alpha - \beta) + (\beta - \alpha)}{\alpha\beta} \\ &= \frac{(\alpha - \beta)(\alpha\beta - 1)}{\alpha\beta} \end{aligned}$$

である. $t_1 \neq t_2$ なので

$$\alpha - \beta \neq 0 \quad \text{かつ} \quad \alpha\beta - 1 \neq 0 \quad \therefore \quad \alpha \neq \beta \quad \text{かつ} \quad \alpha \neq \frac{1}{\beta} \quad (= \beta')$$

逆数をとると

$$\frac{1}{\alpha} \neq \frac{1}{\beta} \quad \text{かつ} \quad \frac{1}{\alpha} \neq \beta \quad \therefore \quad \alpha' \neq \frac{1}{\beta} \quad (= \beta') \quad \text{かつ} \quad \alpha' \neq \beta$$

である.

以上より, $\alpha, \alpha', \beta, \beta'$ はすべて異なる. よって, a のとり得る値の範囲は

$$a < -26 \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.